

< 介護・医療連携推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 太陽メディケアサービス	事業所名	メッツ川崎ヘルパーステーション
所在地	(〒 940-0864) 新潟県長岡市川崎2丁目2478番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・一体型のメリットを活かし、介護看護の連携・情報共有を強化し、その方の有する能力に応じた日常生活を営むことができるようケアサービスを行う。
- ・法人内研修や取引業者が開催する研修会を活用し、職員へのサービス・制度理解の向上を図っている
- ・ICTの積極活用により、即時性のある情報共有を図っている

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 12 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 2 月 25 日	出席人数 (合計)	(8) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2 人) <input type="checkbox"/> その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	ウェブやリモートなども活用しながら、全職員が理解できるまで続けていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修での個人の能力や関心のある内容を選択し、自己研鑽を図る機会提供 ・定期巡回サービスの基本知識、オペレーターの役割、計画作成者の役割を主に学ぶ機会をつくった 	<p>職員個々の苦手分野を意識した研修体制は評価できる。</p> <p>一部の職員に限らず、全体的な取り組みにしていくと、職員の理解が深まると思うため、継続してほしい</p>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	日々の記録を時系列的に情報整理し、検討の上計画作成に反映をさせる。 職員の気づきや利用者の変化について、迅速に共有できるよう ICT 活用を進める。機能のアップデートを管理する担当を決め、機能を有効に活用する。	毎月の事業所会議で検討し、ICTツールを活用し、迅速に発信を行うようにした。 機能のアップデート管理権限は管理者にあるため、管理者が管理している。操作マニュアルを作成し理解度の向上を図った。	一部職員で、ツールの操作が難しい職員がいるため、改善が必要かと思われる。介護職員の気づきや意見が言いやすい、反映しやすい取り組みを行ってほしい 職員間で統一意識をもって、自立支援を進めてほしい
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域の広報誌などで地域情報について調べる。 担当者会議などで多職種との情報交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティへの参加はコロナ渦にて思うように実施はできていない。 担当者会議には、計画作成者などサービス提供責任者にあたる職員が出席をし、情報交換を行った 	担当者会議への出席職員は限られると思うが、利用者が一番関わっているヘルパーの意見を吸い上げる仕組みを見直してほしい。 地域の社会資源をまずは知ること続けてほしい
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	ウェブで動画配信やリモート形式での PR 活動も実施する。	コロナ渦で開催が中止となったこともあり広報活動には苦慮している部分がある。 1 回目の運営推進会議はオンライン形式	地域包括ケアにおいて、中核的な存在であるヘルパーに、期待があることを周知し、地域貢献につなげてほしい With コロナの時代の中での周知活動

			で開催した。	を取り入れてほしい
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	介護と看護による定期随時サービスを行う。多職種と協力しながら利用者と家族が安心して生活できるよう支援する。	介護と看護間の連携は、一体型のメリットを生かし、日々のミーティングなど行えた。		評価がわかりやすいようにデータなどによる可視化できるものがあるとよいのではないか。 地域で安心して暮らせるように、今後も継続してほしい

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	一部の職員に限らず、全職員への周知を行っていくことが必要となる。	オンライン形式や動画視聴など、バックアップ機能があるツールを用いて、全職員に周知を図る機会を作る。 制度理解と理念共有は最低でも年2回以上は機会を設けて周知する。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	一体型の強みを活かし、介護と看護の協力体制にて、医療ニーズや看取りのニーズなど幅広く対応できるよう努める。 日々の記録をしっかりと行い、モニタリングやカンファレンス、計画作成に反映をさせる。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域のインフォーマルサービスの把握をすることが必要。 ケアマネへの情報発信をヘルパーからも積極的にできるように改善が必要
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	Withコロナの時代の中で、周知活動を行い、地域貢献に努めていくことが必要となる
Ⅲ. 結果評価	介護と医療一体のサービスで、利用者の生活の質が向上する。	介護と看護による定期随時サービスを行う。また、他職種と協力

(評価項目 33～34)		しながら、利用者、ご家族が安心して暮らせるように支援する	
--------------	--	------------------------------	--

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します